

Q3

学生時代など経験して

良かったということがありますが、若い人たちにアドバイスをお願いします。

大学2年生のときに障がい者をサポートする赤十字のボランティアに参加しました。その一環で、1981年の国際障がい者年に、世界中の障がい者が日本に集まり、職業技能を競う「国際アビリンピック」が開催され、タイ選手の受け入れ対応にあたりました。大会前には事前合宿をして、介助の仕方やコミュニケーション方法を勉強するのですが、実はその体験がそのまま鳥取県独自の運動としてスタートした「あいサポート運動」のテキストにつながっています。同時に手話にも出会いました。タイチームの人たちは英語で会話していたんですが、なかなか伝わらない。タイ語も覚えましたが音声言語って難しいです。そんなとき、チーム内に聴覚障がい者の方が出て、タイ人同士は手話でコミュニケーションを取っていました。手話は直感的にわかるのでカタコトで日本人でも通じたんです。この経験から2013年に全国で初めて「手話言語条例」を制定したのです。長い人生の中、若いときに挑戦したことが後で生きてくると思います。

▶手話で「頑張ろう、元氣」とエールを送る



夢を追う
みんなへエール

平井 伸治

Shinji Hirai

鳥取県知事

PROFILE

東京都出身。東京大学法学部を卒業し、1984年に旧自治省(総務省)入り。99年7月から鳥取県総務部長、副知事を歴任。自治体国際化協会ニューヨーク事務所長などを務めた後、2007年4月の鳥取県知事選で初当選。現在5期目。63歳。

Q1

平井知事は休日、何をされていますか？

会合や面会、県内外のイベント参加などさまざまな公務があり、家でも議会の準備などに追われ、休みという休みはないです。実は普段移動する車の中でも書類等のチェックなどをしています。でも、いろいろな人と出会う機会を増やしていくことで、地域社会は見えてくると思います。私にとって人と出会って話をするってということは、「ごちそう」だと感じています。皆さまからの励ましの言葉や「ありがとう」の感謝をいただけると本当にうれしいですね。

Q4 心に残る「お世話になった大人」って誰ですか？

私は中高一貫校だったんですが、日本史の授業を担当していただいた先生です。中学時代はやんちゃだったのでよく叱られてました。高校生になって、真面目に勉強をするようになり、成績が上がってきたときに、その先生から「よく頑張っている」とクラスみんなの前で初めて褒めてもらったんです。その後、しばらくして先生は亡くなりました。そういう思い出もあって、あの言葉には励まされたかと今でも感じます。自分のことを見てくれる人がいて、導いてくれる人がいるのはすごく大切なことだと思います。



目標の立て方とコツを教えてください。

Q5

まずは夢を見ること。「奴隷解放宣言」を行ったアメリカ合衆国大統領のエイブラム・リンカーンの言葉で「Determine that the thing can and shall be done, and then we shall find the way.」があります。物事を始める前に、方法や手順のことばかり考えて、結局諦めてしまう。そうではなく、まずは決心して取り組むことが重要。そうすれば道筋や方向性が見えてくる、ということを説いています。今の世の中は立ち止まることに安住しているように思います。挑戦することで初めて人間は成長できると思います。

Q2

現在、挑戦していることは何ですか？

人口が減少している鳥取県で、若い人に定住してもらう県政をつくることに挑戦しています。県と県内有志が連携し、若者の感性で鳥取の魅力県内外に発信する「とっとり若者活躍局」ができて2年。メンバーの皆さんを中心にいるんな活動を通じて街を元気にしてくれています。提言をもらう中で、交流サイト(SNS)やアプリの活用については関心が高いと感じています。情報もそうですが、仲間との交流の場、コミュニティとしての役割など大事なツールの一つといえます。ですから県のアプリも大改造することにしました。若い人たちの意見を投入する、日本にまだやっていないような行政スタイルをつくることにチャレンジしていきます。